

# 長野地域における「鬼女紅葉」書承伝説についての一考察

郭海紅・李常清

日本の長野地域において、現在でも伝えられている伝説があり、それは「鬼女紅葉」伝説である。その書承は中世に源を発するが、その後、変容を重ねながら、長野在地のものとして徐々に根付いてきた。そういう地道な伝承ぶりに惹かれ、本論文は時間軸に沿っての書承伝説と長野地域との関わり方に気を配りながら、テキスト次元での考察を行ってみたい。

## 1 「鬼女紅葉」の通説

「鬼女紅葉」伝説は、長野市の戸隠村の柵地区や荒倉山、その西隣の鬼無里に跨る一帯で語られている。伝承ルーツをたどると、鬼女紅葉と関係のある伝説においては、その起源から成熟にかけて南北朝時代から現代までという長期間を経ていることがわかった。

「鬼女紅葉」に関する書承伝説はさまざまな語り方がある。特に重要な先行研究となるのは、1896年に出版された『北向山靈驗記 戸隠山鬼女紅葉退治之伝』である。粗筋は以下のようなものである。

応天門放火の陰謀で流された伴善男の子孫の笹丸夫婦は子供に恵まれなかったため、第六天の魔王に祈って娘の呉葉を得る。才能と美貌を兼備する呉葉は妖術で自分そっくりの女性を作り、隣村の息子から多額のお金を騙しとって、両親とともに京都へ旅立つ。名を紅葉へと変えた呉葉は、源経基の心を捉え、彼の女房となって子を宿した。しかし、正室を殺害し、自分がその地位に就こうという企てが明るみに出て、戸隠山に流される。紅葉は流刑地の人々に読み書きを教えたり、妖術で病を治したりと、村人に敬われるようになるが、いつの頃からか手下を集めて、他の村を荒らしに回るようになる。噂は京都に伝わり、源経基は平維茂に紅葉退治を命じた。平維茂は妖術を駆使する紅葉に負け続けるが、別所温泉の北向観音に祈り、降魔の剣を手に入れて、ついに紅葉を退治した。

## 2 「鬼女紅葉」の書承伝説群

研究方法として、まず入手しているテキストをリスト化して、伝説の内容によって、場面ごとに対比する。それから、内容の成熟度や長野地域との密着度合いによって「萌芽期」、「準備期」、「成立期」、「成熟・変転期」と4時期に分けて考察する<sup>2)</sup>。

### 2.1 諸作品一覧

本稿で調査・収集したテキストに限ってみると、計17点、21説ある。時代順に整理すると以下のようなになる。

- (1) 『太平記』(第32第7章「直冬上洛事付鬼丸鬼切事」)(作者未詳 1368-1375)

- (2) 『戸隠山絵巻』(作者未詳 南北朝一室町時代)
- (3) 謡曲『紅葉狩』(観世小次郎信光 室町時代)
- (4) 『信府統記』(鈴木重武・三井弘篤編集 1724)
- (5) 『久米路の橋』(菅江真澄 1784)
- (6) 『善光寺道名所図会』(豊田庸園著・小田切春江図説 1843)
- (7) 『長野県町村誌』(日陰村)(長野県各市編纂委員会 1882)
- (8) 『信濃奇勝録』(井出道貞 1890)
- (9) 『北向山靈驗記 戸隠山鬼女紅葉退治之伝』(斉藤一柏・関依川 1896)(以下『北向山靈驗記』と記す)
- (10) 『紅葉狩絵巻』(荒井寛芳 1937)
- (11) 『鬼女紅葉』(柴田道子 1974)
- (12) 『戸隠の鬼たち』(国分義司 2003)(中には2説が挙げられる。以下『戸隠の鬼たち1』と『戸隠の鬼たち2』と記す)
- (13) 『信州の民話伝説集成 北信編』(高橋忠治 2005)
- (14) 『紅葉そなたは鬼女であれ貴女であれ』(落合宏 2006)(中には3説が挙げられる。以下『紅葉そなた1』と『紅葉そなた2』と『紅葉そなた3』と記す)
- (15) 『新釈信濃の民話―民話を読みかえす―』(藤岡改造 2007)(中には2説が挙げられる。以下『新釈信濃の民話1』と『新釈信濃の民話2』と記す)
- (16) 『貴女紅葉 鬼女とよばれし女人の物語』(北島文子 2009)(以下『貴女紅葉』と記す)
- (17) 『小説紅葉』(榊屋清衛門 2012)

## 2.2 各場面ごとの整理

伝説内容を1-22の場面に分け、各作品において、記載の有無や新たな場面の追加に注目して、整理を行う。基準とした場面は以下のとおりである。

- 1 紅葉の祖先の伴善男は陰謀で伊豆に流された。
- 2 伴善男の末裔の笹丸夫婦は奥州会津を流浪した。
- 3 子のない笹丸夫婦は第六天の魔王に祈願した。
- 4 娘の呉葉が誕生した。
- 5 美貌と才能に恵まれた呉葉は名が近郷に響いた。
- 6 隣りの長者の息子・源吉は呉葉を恋するあまり病気になった。
- 7 呉葉は両親の家名を興そうという宿願をよく知っていて、妖術で自分そっくりの女性を作り源吉からお金を騙し取って、京都へ赴いた。
- 8 京都で呉葉は紅葉と名を改め、髪の手具や履物を扱う店を営み、その美貌で店は繁盛した。
- 9 源経基の御台が紅葉の琴の音を聞きとめ、紅葉を自分の女中にした。

- 10 源経基と出会い琴の音が経基公の心を奪った。
- 11 経基公から寵愛を受けて、子を宿したが、正妻の権を奪うために御台を呪い殺そうとしたため、御台は奇病を患った。
- 12 比叡山の律師の祈祷により紅葉の妖術が露見した。
- 13 紅葉は死一等を減じられ戸隠山に流されることになった。彷徨いながら近くの水無瀬にたどり着いた。
- 14 村人の病気の治癒したことなどにより生神さまと敬われるようになった。
- 15 男の子を産んで経若丸と名づけた。
- 16 水無瀬で屋敷を建てたり京都の地名をつけた。
- 17 鬼武、おまんのような一党を集めて悪事を働くようになった。
- 18 平維茂が鬼退治の命を受けた。
- 19 最初紅葉の妖術で敗北してばかりいたため、北向観音に参籠し剣をもらった。
- 20 観音から授かった剣で紅葉の首を切り落とし首桶に収めた。
- 21 手下のおまんは尼になったがすぐ自殺して、おまんの毛が勸修院に伝わった。
- 22 鬼女紅葉がいなくなったために、村の名前は鬼無里となった。

### 3 4 時期への分期及び概観

以上の基準となった各場面と対照しながら、具体的に【萌芽期】—【準備期】—【成立期】—【成熟・変転期】に分けて考える<sup>3)</sup>。

#### 3.1 【萌芽期】：『太平記』—謡曲『紅葉狩』（計3作品）

戸隠山を舞台に、ある英雄が悪い鬼を退治するという簡潔な展開である。鬼退治の人物の名前も鬼の名前も固定していない。

「萌芽期」に属するのは、『太平記』、『戸隠山絵巻』、『紅葉狩』の3作品である。成立時期は南北朝—室町時代後期とされる。この時期の作品はある有名な人物が戸隠山の鬼を退治するという簡潔な鬼退治譚である。それは坂上田村麻呂の鬼神退治や源頼光の酒吞童子退治など、広く都で伝えられている鬼退治の伝説を、地域の伝説に活かす作者の意図によると考えられる。都の英雄による鬼退治を信濃国という新しい世界に組み入れる試みであり、在地に密着する最初の段階に過ぎない。そのために、語り方も簡潔であり、鬼の名前や鬼退治の人物の名前も定着していないと言えよう。

作品群の細部の特徴を表で示すと表1のようになる。

表1 「萌芽期」の作品群の細部

項目番号	項目内容	作品名	『太平記』	『戸隠山絵巻』	『紅葉狩』
1	鬼のいた場所		戸隠山	戸隠山	戸隠山

2	鬼の名前	なし	九生大王	なし
3	鬼退治の人物	多田満仲	きひの大臣	平維茂
4	退治英雄が祈願する観音	なし	長谷観音	八幡の末社武内の神
5	鬼の造形	悪の存在	悪の存在	悪の存在

これまで見てきたように、「鬼女紅葉」伝説の「萌芽期」の特徴は、信濃の戸隠山を舞台とするが、鬼の名前も鬼退治の人物も定着していないところにある。「萌芽期」の作品は都の知識を生かして、鬼退治の英雄を選んだほかは、唯一、鬼の住んでいる場所を戸隠山とするという、都の伝説が地方へ浸透していく兆しが見られるのみである。都の武人が祈願する長谷観音と八幡の末社武内の神のような神仏も、都では意味を持つが、信濃とは大きく関わらない。また、鬼の造形としては、坂上田村麻呂の鬼神退治や源頼光の酒呑童子退治などの都の伝説と同じように、鬼は完全な「悪」の存在として描かれている。

### 3.2 【準備期】：『信府統記』－『信濃奇勝録』（計5作品）

「萌芽期」と同じように、簡潔な鬼退治譚であるが、鬼の名前は紅葉、鬼退治の人物は平維茂に定着してくる。また、信濃の北向観音や鬼無里のような地名を取り入れるなど在地傾向を見せはじめる。

「準備期」に属するのは、『信府統記』、『善光寺道名所図会』、『久米路の橋』、『信濃奇勝録』、『長野県町村誌』の5作品である。成立時期は江戸時代後期—明治時代初期とされる。粗筋は武将の平維茂は鬼女紅葉を退治したということになった。粗筋は簡潔であるが、鬼と鬼退治の英雄の後日談、鬼無里という村名との結びつきが付け加えられ、「萌芽期」の作品群に比べると在地の色彩が深化していることを意味している。単に都の知識を地方に移すだけでなく、伝説の信憑性を高めるために地名と結びつけたり、後日談を追加したりと様々な工夫がなされている。

細部の特徴は表2のようである。

表2 「準備期」の作品群の細部

項目番号	作品名 項目内容	『信府統記』	『久米路の橋』	『善光寺道名所図会』	『長野県町村誌』	『信濃奇勝録』
1	鬼のいた場所	戸隠山	荒倉山	戸隠山	日陰村	荒倉山
2	鬼の名前	紅葉	赤葉	紅葉	紅葉	紅葉
3	鬼退治の人物	平維茂	平維茂	平維茂	平維茂	平維茂（信濃守）
4	鬼退治の人物が祈願する観音	なし	なし	北向観音	なし	なし
5	鬼の造形	悪の存在	悪の存在	悪の存在	悪の存在	悪の存在

6	鬼の後日談	虫倉嶽には鬼の骨が積んである。	なし	紅葉の魂は日吉権現となって北向山観音を守護するようになった。	なし	紅葉の毛髪は壺中に収めている。
7	村の名前の由来	鬼がなくなったので、鬼無里となった。	鬼がなくなったので、鬼無里となった。	維茂は北向観音に感謝して別業を造営し別所と呼ばれ里の名となった。	なし	なし

以上見てきたように、「鬼女紅葉」伝説の「準備期」の特徴として、まずは、「萌芽期」の謡曲の『紅葉狩』の影響で鬼の名前は紅葉に、鬼退治の人物の名前は平維茂に定着したということである。また、この時期に新しい展開も見いだされるようになる。鬼退治の人物が祈願する神仏は、中央に共有される神仏から地方の北向観音になってくる。在地伝説<sup>4)</sup>としての新しい展開と言えよう。

### 3.3 【成立期】：『北向山霊験記』－『紅葉狩絵巻』（計2作品）

「萌芽期」、「準備期」の作品の影響を受け、在地伝説の母体となったと考えられる。それまで鬼であるが故に「悪」であった紅葉の造形に「善」の面が付け加えられ、「善悪両面」が描かれることになる。在地における「善」の紅葉の造形は、在地伝説としての合理化が深化したことを意味しており、以後の作品群に大きな影響を与えることになる。

「成立期」に属するのは、『北向山霊験記』、『紅葉狩絵巻』の2作品である。『北向山霊験記』の成立時期は明治初期とされる。『紅葉狩絵巻』は、1937年の成立であるが、『北向山霊験記』を忠実に絵巻化したものであり、考察の対象は、『北向山霊験記』に集約できる。この本は基本的には「準備期」の諸作品と同じく、平維茂が紅葉を退治するという粗筋である。しかし、紅葉が退治される以前の話が大量に加えられた。そのうち、特に次の2点に注目する必要がある。1点目は「紅葉は親の願いである家の再興を期すが、京都で源経基の正妻を呪い殺そうとして戸隠山に流される」との内容である。2点目は「紅葉は水無瀬で京都の文化を伝えて、地元の人々に敬われるが、やがて手下達を率いて、他の村を荒らしまわるとの内容である。どちらも鬼女としての「悪」（「都での源経基の正妻の殺害未遂」と「水無瀬での他村攻撃」）とともに「善」（「家の再興への願い」と「水無瀬で京都の文化を伝えること」）が記される。「萌芽期」と「準備期」における紅葉の「悪」の造形は「善悪両面」の造形に変容し、伝説の在地傾向がさらに進んだと言えよう。

『北向山霊験記』細部の特徴を考察するにあたり、まず「準備期」と同項目を確認した後、新たに付け加えられた内容を検討する。

①鬼のいた場所については、紅葉は、初め戸隠山に流されるが、その後、水無瀬に辿りつ

く。後に、平維茂と戦う際には、戸隠の岩屋付近へと舞台が移る。

- ②鬼の名前は「準備期」と同様に、「紅葉」である。
- ③鬼退治の人物も「準備期」と同様に、「平維茂」である。
- ④鬼退治の人物が祈願する観音は上田・別所温泉の北向観音とされる。平維茂は信濃地域に観音の力を借りて、紅葉を退治することになる。
- ⑤鬼の造形は「善悪両面」となる。紅葉は都で経基の正室を呪い殺そうとしたり、流刑地で他村を荒らしまわったりと「悪」の一面を持っている。しかし、一方で、紅葉は、家の再興を願ったり、水無瀬で村人に京都の文化を伝え敬われるようになるなど「善」の一面も持つようになる。地方の人々の手によって、新しい紅葉の造形を作りだされたのは、在地伝説としての伝承が完成の域に近づいたことを意味すると考えられる。
- ⑥鬼の後日談は記されない。
- ⑦村の名前の由来は、鬼がいなくなったために、水無瀬という村の名前は鬼無里となったとされる。伝説の内容と関連付けながら、村の名前の由来を説明するのは地域の伝説としてのアイデンティティの獲得に役立つ。
- ⑧「紅葉は家の再興を期すが（善）、京都で源経基の正室を呪い殺そうとして戸隠山に流される（悪）」という話が追加された。この話には前半の「善」の一面と、後半の「悪」の一面との、「善悪両面」が記される。
- ⑨「紅葉は水無瀬で京都の文化を伝えて、地元の人々に敬われるが（善）、やがて手下達を率いて他の村を荒らしまわる（悪）」という話が追加された。この話にも前半の「善」の一面と、後半の「悪」の一面との、「善悪両面」が記される。

以上見てきたように、「成立期」の特徴として、まずは「準備期」の影響を受け、鬼女の名前と鬼退治の人物の名前は、それぞれ紅葉と平維茂とされたことがある。また、平維茂が祈願する神仏は、上田・別所温泉の北向観音であり、鬼無里という村の名前の由来も「準備期」と同じく伝説の内容と結びつけ、語られること。それと以前の「悪」の存在から「善悪両面」の存在へと変化した紅葉の造形。つまり在地のヒロインとして「善」の面も併せ持つようになること。この新しい造形は在地伝説としての伝承が完成の域に達したことを意味できよう。

### 3.4 【成熟・変転期】：『鬼女紅葉』－『小説紅葉』（計 11 作品）

「成立期」の影響を受けながら、多様な変化を見せる。

作品群は、おおよそ 3 つの系統に分けられる。1 つ目は、「成立期」と同じく紅葉を「善悪両面」から描く「善悪両面の紅葉の系統」である。2 つ目は、「悪」の面が省かれ、「善」の造形のみがなされる「善の紅葉の系統」である。3 つ目は、紅葉と平維茂の恋愛を軸にして話を展開する「新説の系統」である。

「成熟・変転期」に属するのは、『鬼女紅葉』、『戸隠の鬼たち 1』、『戸隠の鬼たち 2』、『信州の民話伝説集成』、『紅葉そなた 1』、『紅葉そなた 2』、『紅葉そなた 3』、『新釈信濃の民話

1』、『新釈信濃の民話 2』、『貴女紅葉』、『小説紅葉』の 11 作品である。成立時期は昭和中期以降とされる。この時期の作品群の内容は多種多様な展開を見せる。

次に、「成熟・変転期」の作品群を、A、「善悪両面の紅葉の系統」、B、「善の紅葉の系統」、C、「新説の系統」の 3 つの系統に分けて、それぞれの特徴を考察する。

#### A 「善悪両面の紅葉の系統」

まず、「善悪両面の紅葉の系統」に属するのは、『鬼女紅葉』、『戸隠の鬼たち 1』、『戸隠の鬼たち 2』、『信州の民話伝説集成』、『紅葉そなた 1』、『紅葉そなた 2』の 6 作品である。これらの作品群は基本的には「成立期」の作品の影響を受けており、紅葉は源経基の正妻を呪い殺す野心を持ったり一党を集めて悪事を働いたりという「悪」の一面と、流刑地で村人に読み書きを教えたり病気を治したりする「善」の一面を併せ持っている。

「成立期」と同項目を確認し、この系統の作品群の細部の特徴を表 3 に示す。

表 3 「善悪両面の紅葉の系統」の細部

項目番号	作品名 項目内容	『鬼女紅葉』	『戸隠の鬼たち 1』	『戸隠の鬼たち 2』	『信州の民話伝説集成』	『紅葉そなた 1』	『紅葉そなた 2』
1	鬼のいた場所	戸隠山	戸隠山	水無瀬	戸隠山	戸隠山	鬼無里
2	鬼の名前	紅葉	赤葉	紅葉	紅葉	紅葉	紅葉
3	鬼退治の人物	平維茂	平維茂	平維茂	平維茂	平維茂	平維茂
4	鬼退治の人物が祈願する観音	北向観音	北向観音	なし	北向観音	北向観音	なし
5	鬼の造形	善悪両面	善悪両面	善悪両面	善悪両面	善悪両面	善悪両面
6	鬼の後日談	なし	なし	なし	なし	紅葉と手下の墓は柵神社のそばとされる。	なし
7	村の名前の由来	なし	なし	なし	なし	鬼がなくなったので、鬼無里となった。	なし
8	紅葉は京都で源経基の御台を呪い殺そうとして戸隠山に流される。	ある	ある	なし	ある	ある	なし
9	紅葉は鬼無里で京都の文化を伝えて、地元の人々に敬われる。	ある	ある	ある	ある	ある	ある

これまで見てきたように、「善悪両面の紅葉の系統」の特徴として、まずは鬼の名前と鬼退治の人物の名前がいままでと同じで、伝説の基本情報になっているところである。また、

この系統の作品は「成立期」の影響を受けて、紅葉を「善」と「悪」の両面から造形している。いずれの作品でも、紅葉には一党を集めて流刑地で悪事を働く「悪」の一面と、流刑地で村人に読み書きを教えたり病気を治したりする「善」の一面が記される。しかし、『戸隠の鬼たち 2』、『紅葉そなた 2』の 2 作品には、他作品の「都で源経基の正室を呪い殺そうとして、戸隠山一帯に流される」内容が、「都で源経基の正室の陰謀により、戸隠山一帯に流される」へと変わり、「悲劇のヒロイン」という新たな紅葉の造形が見られる。「善の紅葉の系統」の架け橋になっていると言えよう。

## B 「善の紅葉の系統」

次は、「善の紅葉の系統」に属する『貴女紅葉』、『小説紅葉』の 2 作品である。この系統の作品では、紅葉から「悪」の面が一掃され、「善」の面が特化される。「都で源経基の正妻を呪い殺そうとして流される」内容は、「都で源経基の正妻に妬まれ、罪もないのに流される」となり、「善悪両面の紅葉の系統」では残されていた「流刑地で京都の文化を伝えるものの、周辺の村を荒らしまわる」という内容は、「流刑地で京都の文化を伝える」部分はそのままに、「周辺の村を荒らしまわったので退治される」が「源経基の正妻と息子の陰謀で殺される」とされるのである。

「成立期」と同項目を確認し、その後に新たに付け加えられた内容を考察する。

- ①「鬼」のいた場所は、『貴女紅葉』では水無瀬、『小説紅葉』では鬼無里とされる。「善悪両面の紅葉の系統」のうち、「善の紅葉の系統」への架け橋と目される『戸隠の鬼たち 2』（水無瀬）、『紅葉そなた 2』（鬼無里）の 2 作品との関係が注目される。
- ②「鬼」の名前は、2 作品とも紅葉である。ただし、紅葉は「鬼」として造形されていない。
- ③「鬼」退治の人物は、2 作品とも平維茂である。
- ④「鬼」退治の人物が祈願する観音は、2 作品とも記されていない。紅葉は「鬼」ではなく、特別な能力も持っていないため、平維茂は観音に祈願して、戦う必要もなくなったのである。
- ⑤「鬼」の造形は、2 作品とも「善」の存在である。「成立期」の「善悪両面」は「善」へと変わった。「都で源経基の正室を呪い殺そうとするので流される」との「悪」は「都で源経基の正室に妬まれ、罪もないのに流される」との「善」になる。また、「周辺の村を荒らしまわったので退治される」との「悪」は「源経基の正室の陰謀で殺される」との「善」になる。また、成立期の「鬼無里（水無瀬）で京都の文化を伝える」との「善」は残された。「成立期」の「善悪両面」は、完全な「善」へと変えられた。
- ⑥「鬼」の後日談は、2 作品とも記されない。紅葉は「貴女」すなわち「鬼の女」ではなく「貴い女」であるため、「鬼」の後日談がなくなった。
- ⑦ 村の名前の由来は、2 作品とも記されない。紅葉は「貴女」すなわち「鬼の女」ではなく、「貴い女」であるため、村の「鬼無里」という名前の由来とは結びつかなくなった。

- ⑧「紅葉は京都で源経基の正室を呪い殺そうとして戸隠山に流される」の内容は2作品とも記されない。この内容は「善の紅葉」という造形に相応しくないために、省かれた。その代わりに、「正室に嫉まれ、罪のない紅葉は戸隠山に流される」内容に変えられたのである。
- ⑨「紅葉は鬼無里で京都の文化を伝えて（善）、地元の人々に敬われるが、他の村を荒らしまわる（悪）」の話は、2作品とも前半の「善」の一面があるが、後半の「悪」の一面がなくなった。それは紅葉の「善」の造形を作りだすためである。後半の「悪」の代わりに、紅葉の殺害は、正室と子供の陰謀によるとされた。
- ⑩「紅葉は源経基の正室に妬まれ、罪もないのに戸隠山に流され、殺された」との話は2作品ともある。「成立期」における「鬼女」紅葉が殺されたという「悪」を「善」に変えるために新説を展開する。紅葉が信濃に流される理由は、「源経基の正室を呪い殺そうとする」から「源経基の正室に妬まれた」ためとし、紅葉が退治される理由は「他の村を荒らしまわる」から「源経基の正室と子供の陰謀」とされた。紅葉の造形は、「成立期」における「善悪両面」から「善」へと特化されるのである。

以上見てきたように、「善の紅葉の系統」の特徴として、まずは、「鬼」の名前や「鬼退治の人物名」のような基本情報は変わらない。しかし、紅葉は「貴女」となるため、「成立期」における「鬼女」と関わる「鬼の後日談」、「村の名前の由来」、「平維茂の祈願する観音」の内容が省かれた。また、紅葉は完全な「善」として造形される。「成立期」の「善悪両面」のうち、「善」の一面は残され、「悪」の一面は書き換えられた。紅葉の造形の変化は、「鬼女紅葉」伝説が都の伝説の影響から独立し、在地伝承として成熟したことを明らかにしている。

### C 「新説の系統」

最後は、「新説の系統」に属する『紅葉そなた3』、『新釈信濃の民話1』、『新釈信濃の民話2』の3作品である。この系統の作品群はそれまでの伝説と内容が大きく異なる。したがって、今までのように、項目を確認しながらの考察ではなく、それぞれの作品内容を通して、その特徴を明らかにしていくことにする。

『紅葉そなた3』は、紅葉は13歳の時、京都へ旅立つ前に、村の少女たちに紅葉の枝をもらったために、名前を呉葉から紅葉に変えたという、紅葉の名前の由来の紹介にとどまっている。京都に行った後の話は一切触れられていない。呉葉から紅葉への改名は、「成立期」の『北向山靈験記』では京都でなされたとするが、『紅葉そなた3』では、鬼無里でもらった紅葉の枝を由来とし、在地との結びつきを強調する。

『新釈信濃の民話1』は、「成立期」の『北向山靈験記』に沿った内容を持つが、平維茂にひそかに恋していたという異色のプロットが書き加えられた。粗筋は以下のとおりである。第六天の魔王の申し子である呉葉は名を紅葉と変え、京都まで旅立つ。そこで、源経基の寵愛を受けるが平維茂にひそかに恋している。やがて、紅葉は経基の正室を呪い殺そ

うとした罪で信濃に流された。紅葉は信濃の地で琴を教えたり、病を治したりと、敬われるようになる。しかし、京都へ戻るため、手下を率いて悪事を働くようになった。朝廷から紅葉退治の命令を受けた平維茂は、別所の北向観音に授かった降魔の剣で紅葉退治に成功した。鬼がいなくなったため村の名前を「鬼無里」と呼ぶようになった。

『新釈信濃の民話 2』では、紅葉と平維茂との恋愛を軸に、さらに新しい内容が加えられた。紅葉は平維茂を愛し、源経基に従わなかったため、信濃国に流された。その後、川に流された「おまん」を救って、一緒に生活するようになった。しかし、いつの頃からか、荒倉山に鬼女が住んでいる噂が伝わってきて、天皇は平維茂に鬼女退治を命じた。平維茂は「鬼女」が紅葉であることがわからないまま、紅葉を殺してしまった。

#### 4 結びにかえて―「鬼女紅葉」書承伝説にみる在地要素

「鬼女紅葉」書承伝説は中世から現代へと、時代とともに長野地域により鮮明な形態で根付いてきたと言える。そこには時代背景、書き手の特質または空間配置など多くの要素が絡み合っていることは言うまでもない。枚数の関係で以下は特に伝承過程における在地要素に沿って、論じてみたい。

第1に重要なのは「触媒」が大事な役割を果たしたことである。「鬼女紅葉」伝説の「萌芽期」に、都の「鬼退治」伝説が戸隠山に伝わったことで、「鬼女紅葉」伝説は在地の第一歩を踏み出した。そのため、都の「鬼退治」伝説は「鬼女紅葉」伝説の在地伝承の過程で最初に現れた「触媒」といえよう。また、「準備期」に、謡曲『紅葉狩』は色々な階層に享受された芸術として、伝説の発展に大いに貢献した。『紅葉狩』の力を借りて、鬼女の名前は紅葉と、鬼退治の人物は平維茂に定着しただけでなく、謡曲の独特の魅力で、伝説は広く伝わっていった。その強い影響で「鬼女紅葉」伝説の母体である『北向山靈驗記 戸隠山鬼女紅葉退治之伝』は世に問われた。その謡曲の甚大な影響力から見ると、『紅葉狩』は「鬼女紅葉」伝説の在地伝承に役立ったもう1つの「触媒」になる。

2つ目は在地民衆の感情と態度が在地密着伝承において、欠かせない要素である。中国の民俗学者の顧頡剛氏は「民衆の感情と想像力の面からこの伝説（孟姜女伝説 筆者注）の再話される力を見るべきである。ある伝説は頼りになる力があるからこそ、さらに伝承される可能性がある。したがって、この伝説は外の要素を取り入れたというよりも、寧ろ、民衆の感情と想像力で、この伝説のスタイルを育てたといつてよいのである」<sup>5)</sup>（筆者訳）と指摘したように、民衆の感情と態度は「鬼女紅葉」伝説の在地伝承の過程において、見逃してはならない。伝説内容の変遷は実は民衆の紅葉に対する感情の変化から非常に強い影響を受けた。伝説のどの部分が生き残るかは、在地の民衆の感情によるところが大きいのである。

3つ目は地名、寺院、縁起物のような有形民俗資料が確実な「証拠」として、在地密着伝承におき、「鬼女紅葉」書承伝説の在地化の力になれたこと。「萌芽期」には、戸隠山という在地の地名しかなく、在地程度が低かった。しかし、「準備期」になると、地方の遺跡

と関連付けながら、鬼の後日談を付け加えたり、「鬼がいなくなったので、村の名前は鬼無里になった」のような村の名前の由来など、在地との結びつきが強化された。また、鬼女退治の祈願も地方に共有される北向観音になるなど、在地伝説として、新たな進展が窺われる。さらに、「成立期」と「成熟・変転期」になって、鬼無里や別所温泉のような村名、北向観音のような寺社、東京、西京、岩屋のような現在でも残っている遺跡が点在し、在地との結びつきが強調されつつある。

#### [注]

- 1) 時間軸と空間軸という2本の糸口を手がかりに、書承内容が如何に時間の流れの中で地域空間と接触を開始、展開、さらに一体化できたかの変遷ぶりに重点をおきたい。
- 2) 4時期に分類した根拠は書承作品の数の違い、ストーリー性の完成度、地域との関連性、作品構成要素の増減などを総合的に考察し、判断した結果にあること。
- 3) 4時期の主な区別はやはり書承内容が長野地域に密着していく過程で地元住民の心意が如何に反映されたかと思われる。
- 4) テキストそのままの研究より特定の「場」を重視したコンテクスト的な視点を強調するアプローチ。
- 5) 顧頴剛 孟姜女伝説研究集 第68ページ 上海古籍出版社 1984年2月

#### [文献]

- 荒井寛芳, 1937, 『紅葉狩り絵巻』長野: 常楽寺.  
端戸信騎, 2007, 『私家説・鬼女紅葉伝説考』長野: 信濃毎日新聞社.  
藤岡改造, 2007, 『新釈信濃の民話—民話を読みかえす—』長野: ほおずき書籍.  
井出道貞, 1890, 『信濃奇勝録』長野: 井出通.  
岩瀬博など, 2000, 『在地伝承の世界(西日本)』東京: 三弥井書店.  
観世小次郎信光, 1975, 『紅葉狩り』東京: 小学館.  
鬼女紅葉をしのぶ会, 1983, 『鬼』長野: 大昌寺.  
鬼女紅葉をしのぶ会, 1984, 『鬼女紅葉伝説の里』鬼女紅葉をしのぶ会事務局.  
北島文子, 2009, 『貴女紅葉 鬼女とよばれし女人の物語』長野: 長野市中条.  
顧頴剛, 1984, 『孟姜女伝説研究集』上海: 上海古籍出版社.  
国分義司, 2003, 『戸隠の鬼たち』長野: 信濃毎日新聞社.  
小松和彦, 2012, 『「伝説」はなぜ生まれたか』角川学芸.  
小松和彦, 2000, 『記憶する民俗社会』人文書院.  
倉沢美穂, 1973, 『別所温泉の記録 第4号』.  
松本孝三, 2007, 『民間説話「伝承」の研究』東京: 三弥井書店.  
虫倉山系総合調査研究会, 1994, 『むしくら』長野: 西条印刷所.  
落合宏, 2006, 『紅葉そなたは鬼女であれ貴女であれ』長野: 信濃毎日新聞社.  
大森北義(編集) 作者未詳, 1990, 『太平記』東京: 新潮社.  
斉藤一柏・関依川, 1896, 『北向山靈驗記 戸隠山鬼女紅葉退治之伝』近代デジタルライブラリー.  
榊屋清衛門, 2012, 『小説紅葉』長野: ほおずき書籍.  
柵村誌編集委員会, 1967, 『柵村誌』長野: 柏与印刷株式会社.  
柴田道子, 1974, 『鬼女紅葉』東京: 国土社.  
須高郷土史研究会, 1991, 『須高 第33号』.  
菅江真澄著 宮本常一編訳, 1965, 『くめじの橋』東京: 平凡社.  
鈴木重武・三井弘篤(編輯), 1996, 『新府統記』東京: 国書刊行会.  
高橋忠治, 2005, 『信州の民話伝説集成 北信編』東京: 一草社.  
高橋崇, 1959, 『坂上田村麻呂 新稿説』東京: 吉川弘文館.  
豊田庸園, 1998, 『善光寺道名所図会』京都: 臨川書店.  
柳田国男, 1998, 『柳田国男全集 13』東京: 筑摩書房.

## 湯川先生の追悼文

湯川先生は真剣な先生でありながら、優しい先生で、地道な研究で評価され尊敬される先生です。私にとってこの上ない指導教官であると同時に、人生における大事な出会いでもあります。

1997年10月、先生とはじめて出会い、それ以来先生のご指導のもとで民俗学研究の道を歩み始め、研究生から院生まで2年半の間、先生に多くのご面倒をおかけし、先生から多くの恩恵を賜りました。個別指導を受けたり、神楽見学に連れて行ってもらったり、七五三の調査実習に参加させてもらったりで、勉学をいつも励まして下さいました。卒論を書いているのを見て、「気合が入ってますね」と微笑んでおっしゃって下さいました。

2000年3月に山口大学院生卒業後、帰国しましたが、先生とのメールの連絡を絶えず保っていました。ご縁があって、山東大学の民俗学分野の先生たちとも交流ができて、山東省まで学会参加と調査で2回ともお越し下さいました。その時の再会の喜びと感激の気持ちを今でも覚えていますのに、突然のご逝去で今後もう二度とお目にかかることができないと思うと、心が痛みます。

先生がお越し下さった後、山東大学の先生から何回も訪中の誘いを私経由で先生に伝えましたが、先生は事務の仕事と研究が多忙なため、結局応じられたことがありませんでした。先生のことが気になり、時々山口大学人文学部のサイトで先生のお書きになったものを読んだり、お写真を拝見したりして、白髪が増えたことが分かり、民俗学への情熱を感じ取っていました。

先生の健康状況が分からなかったことを非常に悔しく思っています。先生からの最後のメールは2014年5月19日付のもので、5月14日に私が出したメールへの返信です。いつもどおりの丁寧で親切な応答で、私の研究の悩みを聞いて励まして下さいました。大切に取っておいて、時々読み返しては先生を思い出しています。

先生のご遺志を受け継ぎ、民俗学という在野の学問の道を確実に歩き続けていく決心をしています。こういう生き方で先生のご指導と人生へのご助力に報いたいと思っています。

先生のご逝去から早くも1年以上が過ぎてしまいました。遥かな中国の大地にて先生のご冥福をお祈り申し上げます。

2016年1月2日

郭海紅

郭海紅

所属：中国 山東大学外国語学院

E-mail アドレス：zmcghh@hotmail.com

李常清

所属：中国 齊魯工業大学外国語学院

E-mail アドレス：794154377@qq.com